

## 浦和カップ16

グループD 県立浦和高、武南高、明秀日立高、東北高

4月2日(土)

12:30 県立浦和高vs東北高 堀崎G

4月3日(日)

9:00 県立浦和高vs武南高 堀崎G

vs武南 0-7 × (堀崎公園グラウンド)

前半開始直後、自陣深くでの相手のスローインから先制点を奪われる。この失点の後、軽い守備が続き、前半だけで5点を奪われる。攻撃面では、雑なパスやサポートが遅いことなどによりほとんど攻撃の形を作れなかった。また、相手の早い出足により、中盤を使って繋いでいくことも難しかった。

後半は球際で激しくいけるようになり、簡単に抜かれることも少なくなった。攻撃では中盤同士でのパス交換も増えてボールを保持する時間が長くなり、相手ゴール前まで攻め込むことも多くなった。しかし結果は無得点で、2点を奪われた。

雨の人工芝という慣れない環境だったというのもあり、技術的なミスが多く、なかなか攻撃のリズムを作れなかった。また、1stDFの対応が悪くて崩されることが多かった。後半は厳しくチェックにいけていたが、熱くなりすぎることもあった。試合終盤は良い攻撃の形を作れていたため、次はGKからしっかり繋ぐ機会を増やし、序盤から良い形を作れるようにしたい。

記録:田端

16:30 県立浦和高vs明秀日立高 堀崎G

VS明秀日立

結果0-3

浦和カップ2日目。前半は長いボールを蹴ってくる相手に対し、しっかりと競り合っただけでそのセカンドボールを拾うことができているため、いいリズムでボールを動かすことができた。しかし、お互いになかなか決定機を作れないなか前半終了間際、新井(3)が決定的チャンスを作るも決められず前半を0-0で折り返す。

後半に入り、多少相手にボールを支配される時間が増えると、コーナーキックから失点を許してしまう。なんとか同点に追いつきたいなか、浦和は小長谷(3) 江藤(3)を投入して1点を狙いに行くがなかなかチャンスを作れず再びセットプレーからの失点で0-2。そして終了間際にもセットプレーからの失点で0-3で試合終了。

試合の入り方や、セカンドボールの反応などはここ最近では良かったが、失点は全てセットプレーからであったことや、しっかりと繋ぎ相手を崩せる場面が多々あったことから0-3という結果は非常に悔しいものだった。未だ浦和カップでは得点がなく1試合も勝てていないことは非常に厳しい状況だが、試合の入り方、大事な場面での決定力、チーム全体の守備の厳しさなど、浮き彫りになった多くの課題を明日明後日の試合を通して少しずつ改善し、県リーグの初戦を勝ちで飾れるようしっかりと努めていきたい。

記録:佐藤良亮

4月4日(月)

順位リーグ

4月4日(月) レッズランド

vs浦和学院高校

結果 3-0

得点者 江藤(3)×2、平野飛鳥(2)

浦和カップ3日目の2試合目だったため、集中が切れないよう臨んだ。前半、中盤でリズムを作るもののゴールまでは至らず、0-0で前半を折り返す。

後半に入ると、コーナーキックから江藤(3)がヘディングで先制する。その直後、リズム良くサイドへ展開すると、平野飛鳥(2)のクロスに江藤(3)が飛び込み2-0。そして、試合の終盤には、石塚(3)が中へ切れ込み江藤(3)へスルーパス。そのパスで抜け出した江藤(3)がそのままシュート。そのこぼれ球を平野飛鳥(2)が押し込み3-0で試合終了。相手は最終ラインを高く設定していたため、両ウイングへの裏のパスが有効的だった。前半はそのスペースを上手く使うことが出来なかったが、後半は修正して、上手くスペースを使うことが出来た。試合を通して話し合いをしながら改善できたことは、大きな収穫だったと思う。話し合いをしながら改善できれば、今後チームとして成長できると思う。



4月5日(火)

順位決定戦記録4月5日(火) 堀崎G

V S伊勢崎商業高校

結果 1-1

得点者 新井(3)

浦和カップ最終日ということもあり、疲れがたまってきた中での試合だった。前半は相手のアグレッシブな守備にやや押されていたが、中盤での狭い局面を打開した時にはサイドに展開したり、FWに縦パスを入れるなどして自分たちのリズムを作ることにもできていた。

しかし、前半途中でキーパー前のロングボールを押し込まれ先制されてしまい、1点を追う形で前半を折り返す。

後半は相手の中盤でのプレスが少し緩くなり、前を向いてプレーをする機会が増え、サイドを起点にゴールに迫ることが多くなった。

すると後半途中で新井（3）がサイドを突破し、キーパーとの1対1をループシュートで決めて同点に追いついた。

その後もチャンスを作ったが決めきれずそのまま試合を終えた。

前半は相手が浦和の最終ラインや中盤に対して前からプレスをかけてきたため思うようにボールを回せない場面も多かった。普段の練習から素早いプレスに慣れておく必要があると思った。

バックは、相手の裏に蹴ってFWに走らせるサッカーに全体的に対応できていた。これからも声でマークの受け渡しをはっきりさせるのは続けていくべきだと思う。

また、ゴール前でのアイデアやシュートの精度もこれからの練習で磨いていくべき部分だと思った

記録 河見（3）

